

IPD へのルーブリック・モデル活用について



阿南工業高等専門学校

多田豊 (Yutaka TADA)

(技術士：建設部門)

1. はじめに

文部科学省内に設置された科学技術・学術審議会 技術士分科会 制度検討特別委員会 初期専門能力開発・試験検討作業部会では、修習技術者が技術士を目指して行う IPD（初期能力開発）のシステム構築に係る検討が行われている。著者は JABEE 制度を担う高専教員の一人として、このシステム構築にあたり、JABEE と IPD との連続性が重要であると考えており私見を述べたい。

2. 学校教育における目標とルーブリック・モデル

阿南高専では教育目標とする技術者像（技術士に求められる資質能力であるコンピテンシー¹⁾に近い概念）を示した上で、その実現にあたり必要となる責任感やコミュニケーション等の分野横断的な能力について、ルーブリック・モデル（図-1）を作成している。ルーブリック・モデルにより、学生の持つ能力の段階的な発展を見える化することができ、学生の成長の目安となるとともに、教員による評価と自己評価とのズレなどを明確に理解することが可能になる。

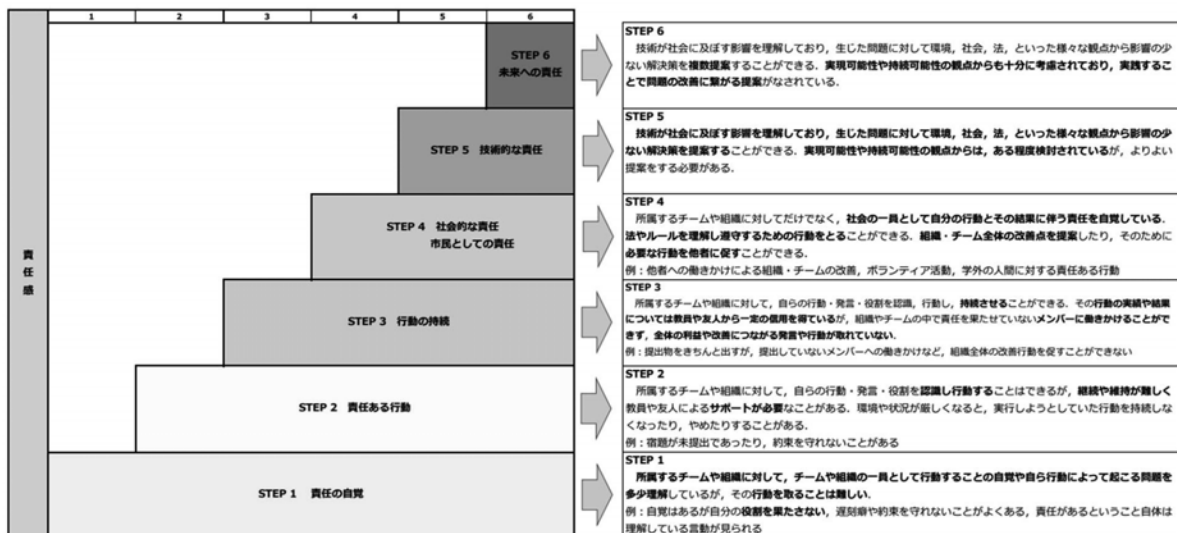


図-1 責任感に関するルーブリック・モデル

3. IPD へのルーブリック・モデルの活用

著者は昨年度、技術士二次試験を受験したが、コンピテンシーの理解について当初苦しんだ。徳島県技術士会主催の面接練習や技術士個人の勉強会等に参加する中で、自身のこれまでの業務経験を通じて、自分自身がコンピテンシーを修得していることを気づくことができた。

著者が当初、コンピテンシーの理解に苦しんだのは、二次試験において目標とする技術士像であるコンピテンシーは示されているが、そこに至るプロセスがみえにくかったためと思われる。これは学校教育に例えれば、教育目標である技術者像は示されているが、そこに至るプロセスであるルーブリック・モデルが示されていないこととなる（図-2）。

科学技術・学術審議会技術士分科会がコンピテンシーを定めるにあたり、35歳頃までに技術士を取得し社会で活躍していく姿が示されているが、そのためにはそうした若い世代が学生時代に学校教育の中で示されていたルーブリック・モデル等を IPD に活用することは有益ではないかと考える。今後、具体的なルーブリック・モデルを検討したいと考えている。

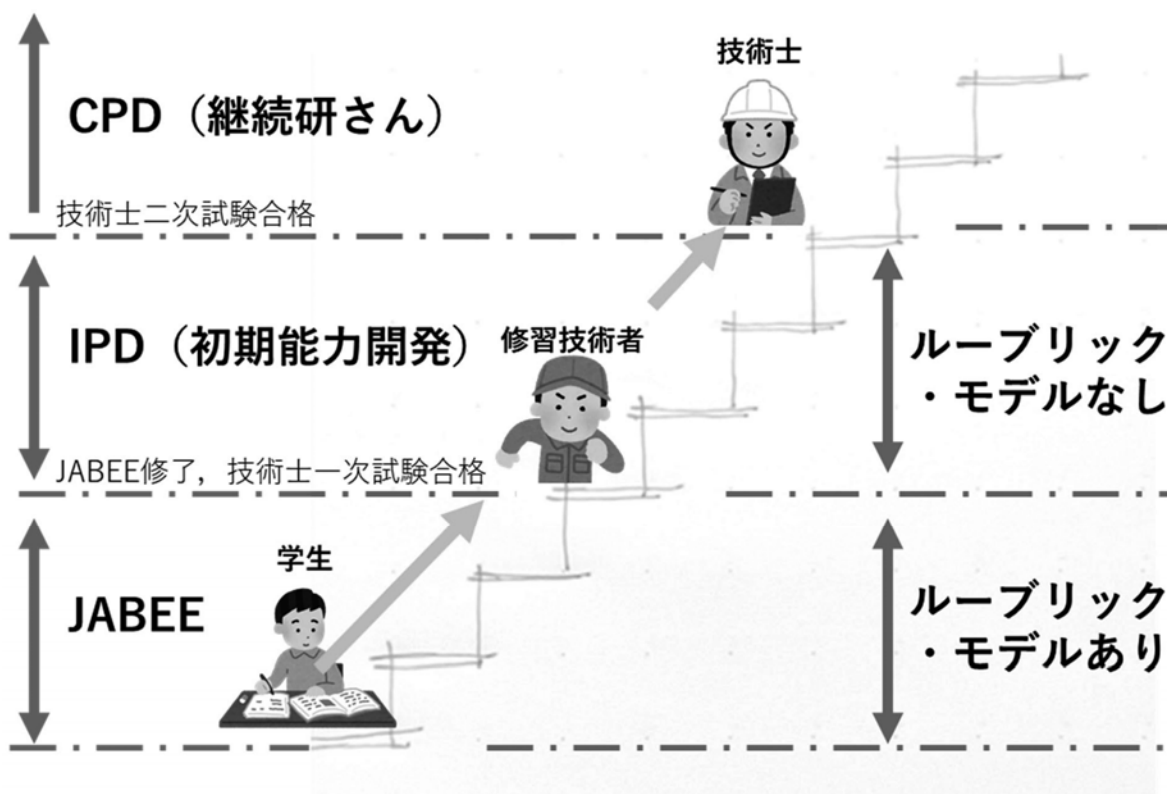


図-2 技術士教育の段階におけるルーブリック・モデルの現状

1) 科学技術・学術審議会技術士分科会：技術士に求められる資質能力（コンピテンシー），平成 26 年 3 月 7 日，URL=https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu7/attach/1413398.htm，閲覧日 2022.10.26